METROLOGIC INSTRUMENTS, INC.

MS3580 QuantumT™ Installation and User's Guide

インストレーションおよびユーザーズガイド



目　次

はじめに

Quantum*T*™ は、手を使わずに使用できる全方向性のバーコードスキャナーで、オプション機能としてシングルライン走査機能を持ちます。高性能の Metrologic Quantum*E*™ 走査エンジンを利用して、RSS をはじめとするすべての標準 1D バーコード体系でめざましい走査性能を提供します。この完全密封スキャナーには、大きな見やすい LED と調整スタンド付きの頑丈な保護カバーが付いています。Quantum*T* は、作業台や壁に取り付けることができ、手で持って走査する場合には支柱なしで立たせておくこともできます。

製品の主な特徴

- 完全自動走査
- メニュー読み取り可能なシングルラインモード
- 走査パターンを特別設定可能
- ホストとのシングルケーブルインターフェイス（PowerLink 互換）はユーザーが交換可能
- 標準 1D、RSS-14、RSS Limited、Expanded RSS の各バーコードすべてを解読
- 7 種類の警報音
- フィールド深度を設定可能
- フラッシュ－アップグレード可能なファームウェア
- OPOS および JPOS システム互換
- CodeGate®
- Sunrise 2005 準拠

QUANTUM*T*	インターフェイス
MS3580-9	OCIA および RS232 送信／受信
MS3580-11	IBM 46xx および全 RS232
MS3580-38	RS232 低速 USB, キーボードエミュレーションモードまたはシリアルエミュレーションモード*
MS3580-40	フルスピード USB
MS3580-41	RS232／ライトペンエミュレーション
MS3580-47	キーボードウェッジ、スタンドアロンキーボード、RS232 送信／受信
MS3580-104	RS232 TTL、レーザーエミュレーション

* *キーボードエミュレーションモードおよびシリアルエミュレーションモード用に設定可能。初期設定値は、キーボードエミュレーションモード。*

はじめに

スキャナーおよび付属品

基本キットの構成部品	
部品番号	**名　称**
MS3580	Quantum*T* Omni \ **シングルラインスキャナー**
00-02026	Quantum*T* Omni \ **シングルラインスキャナー設置および使用の手引き** *
00-02407	MetroSelect® **設定の手引き** *

* *手引きは、www.metrologic.com からダウンロードすることもできます。*

オプションの付属品	
部品番号	**名　称**
	AC-DC **電力変圧器** - **安定化した** 5.2VDC @ 650 mA **出力**
45-45593	120V **米国およびカナダ**
45-45591	220V-240V **欧州大陸**
45-45592	220V-240V **英国**
46-46803	220V-240V **オーストラリア**
46-46983	220V-240V **中国**
54-54000x -3	RS232 PowerLink Cable **パワージャック内蔵** 2.1 m **ストレートコード、ショートストレインリリーフ**
MVC**	Metrologic **電圧変換器ケーブル** ±12VDC～＋5.2VDC
**	MVC **ケーブルシリーズおよび利用可能なホスト接続についての詳細は、**Metrologic **カスタマーサービス代理店までご連絡ください。**

特定のプロトコルをご使用の場合には、その他の品目をご注文になれます。追加品目のご注文は、
販売店か代理店にご依頼になるか、または、以下の Metrologic 社のカスタマーサービス部までご連絡ください。
1-800-436-3876

はじめに

スキャナーおよび付属品

オプションの付属品	
部品番号	名　称
54-54002x-3	キーボードウェッジ PowerLink ケーブル 2.1 m ストレートコード、ショートストレインリリーフ
54-54020x-3	スタンドアロンキーボード PowerLink ケーブル 2.1 m ストレートコード、ショートストレインリリーフ
54-54213x-N-3	USBフルスピードケーブル、Locking Plus-Power™ タイプA 3 m ストレートコード、ショートストレインリリーフ
54-54214x-N-3	USBフルスピードケーブル、Locking Plus-Power™ タイプA 5 m ストレートコード、ショートストレインリリーフ このケーブルは、フルスピード USB（−40）インターフェイスでのみ使用されます。
54-54235x-N-3	USB 低速通信ケーブル、タイプ A 2.8 m ストレートコード、ショートストレインリリーフ
54-54249x-N-3	通信ケーブル、ホストエンドは終端処理なし 203 mm ストレートコード、ショートストレインリリーフ
46-00288	フレックススタンド（3"）
46-00289	フレックススタンド（6"）

特定のプロトコルをご使用の場合には、その他の品目をご注文になれます。追加品目のご注文は、
販売店か代理店にご依頼になるか、または、以下の Metrologic 社のカスタマーサービス部までご連絡ください。
1-800-436-3876

はじめに

スキャナーの構成部品

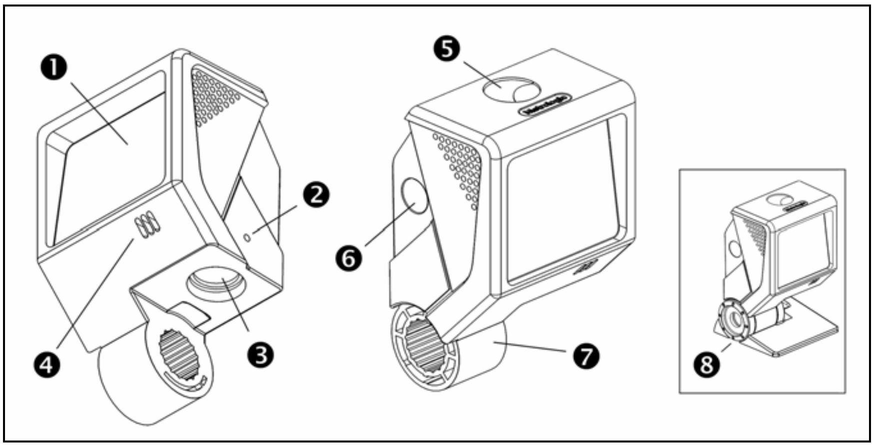


図1.　スキャナー構成部品

品目番号.	名　称
1	赤いレーザー出力窓（レーザー口径）
2	ケーブル通し用ピンホール
3	10-ピン RJ45、メスソケット
4	スピーカー
5	青と白の LED インジケータ
6	ボタン
7	保護カバーおよびスタンド接続 保護カバーは MS3580 から決して外さないでください。保護カバーを外すと、静電放電（ESD）の影響を受けやすいスキャナーの電気構成部品が剥き出しになります。
8	台座スタンド 用意されているスタンドのタイプは、購入した特定の MS3540 キットに応じて決まります。

はじめに

注意事項およびシリアル番号ラベル



図2.

ケーブルの取り外し

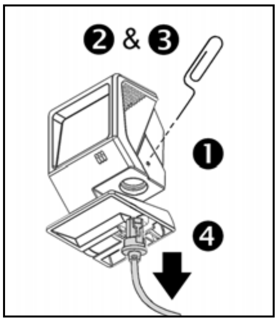


図3.

1. **ケーブルのそばの** Quantum*T* **の脇にある小さな「ピンホール」を見つけます。**
2. **普通のクリップを図のような形に曲げます。**
3. **クリップ（または小さな金属のピン）を小さな「ピンホール」に差し込みます。**
4. **ケーブルロックが外れると、かすかな「クリック」音が聞こえます。** PowerLink **ケーブルのストレインリリーフ（ケーブル留め具）をそっと引っ張り、スキャナーから取り外します。**

保　守

しみや汚れがあると、バーコードを適切に走査することができません。 したがって、レーザー出力窓はときどきクリーニングする必要があります。

1. **クリーニング用の糸くずのでない、表面を傷つけない布に、ガラスクリーナーをスプレーします。**
2. **スキャナー窓をそっと拭きます。**

取り付け方法およびスタンドの組み立て

台座スタンド

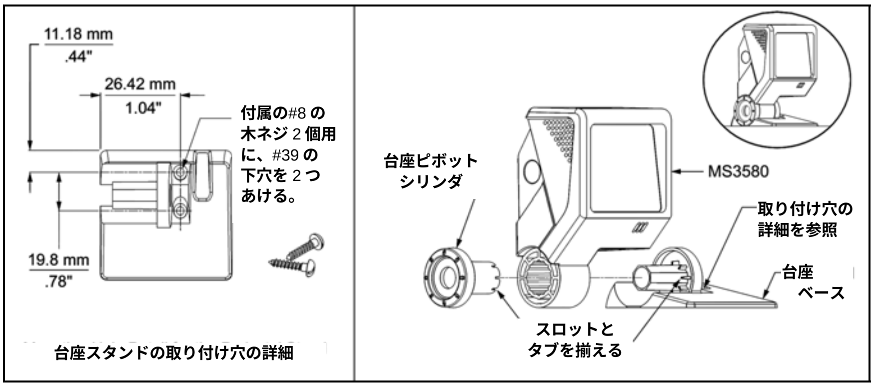


図 4. 台座スタンドの組み立て

オプションのフレックススタンド

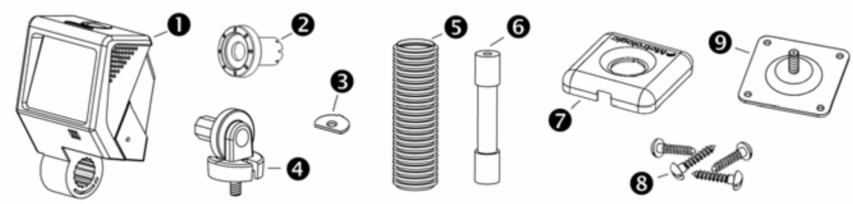


図5. オプションのフレックススタンドの組み立て部品

品目	名称	数量
1	MS3580、QuantumT	1
2	ピボットシリンダ	1
3	ベアリングプレート	1
4	支柱取り付けアダプタ	1
5	フレキシブルシャフトカバー*	1

品目	名称	数量
6	フレキシブルシャフト*	1
7	ベースプレートカバー	1
8	#8×1.00" 木ネジ	4
9	ベースプレート	1
10	ケーブル（図なし）	1

* フレキシブルシャフトとフレキシブルシャフトカバーの長さは、キットに応じて決まります。	
キット番号	フレキシブルシャフトとフレキシブルシャフトカバーの長さ
46-00288	3 インチ
46-00289	6 インチ

取り付け方法およびスタンドの組み立て

オプションのフレックススタンド

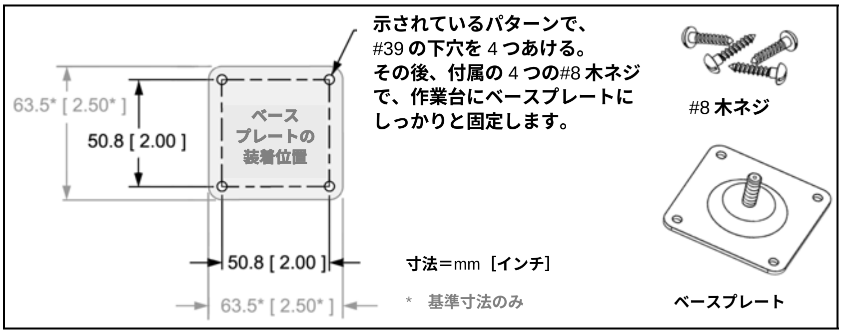


図6. フレックススタンドベースプレートの取り付け穴の詳細（オプション）

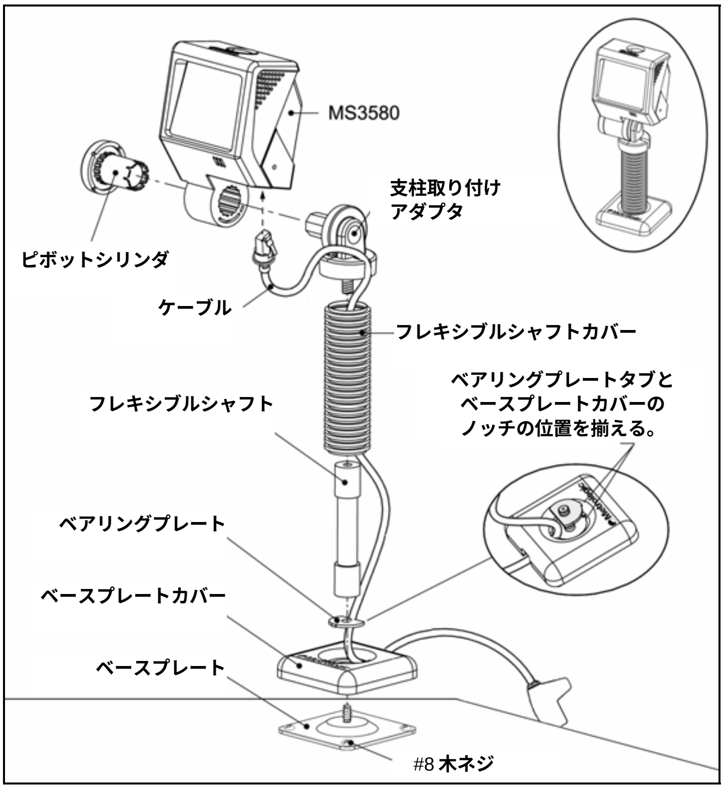


図 7. オプションのフレックススタンドの組み立て

RS232、RS232 TTL、ライトペンまたはレーザーエミュレーション

1. ホスト装置の電源をオフにします。
2. PowerLink ケーブルのオスの 10-ピン RJ45 端を MS3580 の 10-ピンソケットに差し込みます。
3. PowerLink ケーブルのメスの 9-ピン端をホスト装置に接続します。
4. 外部電源コードを PowerLink ケーブルの電源ジャックに差し込みます。

> STOP 電源の AC 入力要件を調べて、電圧が AC コンセントと一致していることを確かめてください。コンセントは、装置の近くの、簡単に手の届く位置になければなりません。

5. AC 電源を変圧器に接続します。
6. ホスト装置の電源をオンにします。

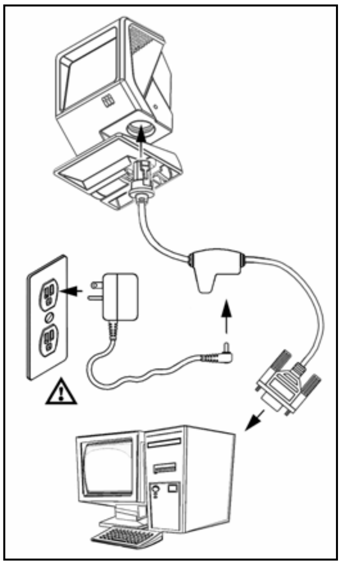


図8.

> スキャナーに最初に電源が入ると、青い LED が点灯します。スキャナーはビープ音を出すと同時に、白い LED が点滅します。

> スキャナーを PC のシリアルポートに差し込んでも、PC に走査情報が表示されるとは限りません。 適切な通信を行うには、ソフトウェアドライバと正しい設定値をセットする必要があります。

> **MS3580-104 は、レーザーエミュレーションが許可状態で出荷されます。スキャナーの再設定中に** Recall Defaults **バーコードが走査されると、レーザーエミュレーションは許可状態でなくなります。**MetroSelect **設定ガイドの*セクション J：レーザーエミュレーション*のレーザーエミュレーションバーコードを走査して、レーザーエミュレーションインターフェイスを再度許可状態にします。この機能をサポートしているのは、MS3580-104 モデルのみです。**

> **注意：**
> 適用される基準を順守するためには、スキャナーに接続されているすべての回路は、EN/IEC 60950 に従って、SELV（Safety Extra Low Voltage）の要件を満たしていなければなりません。
>
> 基準 CSA C22.2 No. 60950/UL 60950 および標準 EN/IEC 60950 を順守するためには、電源は、一定の電源に適用される性能要件を満たしている必要があります。

設　置

IBM 46xx または OCIA

1. ホスト装置の電源をオフにします。
2. MVC ケーブルのオスの 10-ピン RJ45 端を MS3580 の 10-ピンソケットに差し込みます。
3. MVC ケーブルの反対側の端をホスト装置に接続します。
4. ホスト装置の電源をオンにします。

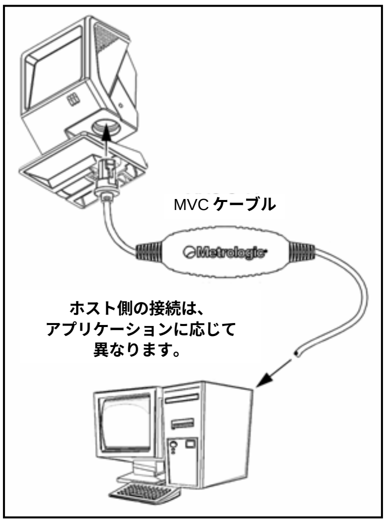


図 9.

スキャナーに最初に電源が入ると、青い LED が点灯します。スキャナーはビープ音を出すと同時に、白い LED が点滅します。

スキャナーを PC のシリアルポートに差し込んでも、PC に走査情報が表示されるとは限りません。 適切な通信を行うには、ソフトウェアドライバと正しい設定値をセットする必要があります。

注意：
適用される基準を順守するためには、スキャナーに接続されているすべての回路は、EN/IEC 60950 に従って、SELV（Safety Extra Low Voltage）の要件を満たしていなければなりません。

基準 CSA C22.2 No. 60950/UL 60950 および標準 EN/IEC 60950 を順守するためには、電源は、一定の電源に適用される性能要件を満たしている必要があります。

キーボードウェッジ

1. ホスト装置の電源をオフにします。
2. PowerLink ケーブルのオスの 10-ピン RJ45 端を MS3580 の 10-ピンソケットに差し込みます。
3. キーボードをホスト装置から取り外します。
4. PowerLink ケーブルの“Y”端をキーボードと、ホスト PC のキーボードポートに接続します。必要であれば、スキャナーに付属のオス／メスのアダプタケーブルを使用して、適切な接続をします。
5. 外部電源コードを PowerLink ケーブルの電源ジャックに差し込みます。

> 電源の AC 入力要件を調べて、電圧が AC コンセントと一致していることを確かめてください。コンセントは、装置の近くの、簡単に手の届く位置になければなりません。

6. AC 電源を変圧器に接続します。
7. ホスト装置の電源をオンにします。

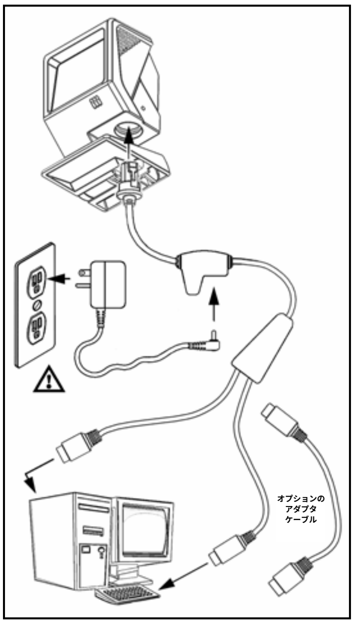


図 10.

> スキャナーに最初に電源が入ると、青い LED が点灯します。スキャナーはビープ音を出すと同時に、白い LED が点滅します。

> ホスト装置から直接 MS3580 の電源をとると、スキャナーまたはコンピュータの動作に影響が出ることがあります。すべてのコンピュータが、キーボードポートから電流を供給するわけではありません。 そのため、Metrologic 社は、外部電源の使用をお薦めします。詳細については、Metrologic 社のカスタマーサービス代理店までご連絡ください。

> **注意：**
> 適用される基準を順守するためには、スキャナーに接続されているすべての回路は、EN/IEC 60950 に従って、SELV（Safety Extra Low Voltage）の要件を満たしていなければなりません。
>
> 基準 CSA C22.2 No. 60950/UL 60950 および標準 EN/IEC 60950 を順守するためには、電源は、一定の電源に適用される性能要件を満たしている必要があります。

設 置

スタンドアロンキーボード

1. ホスト装置の電源をオフにします。
2. PowerLink ケーブルのオスの 10-ピン RJ45 端を MS3580 の 10-ピンソケットに差し込みます。
3. PowerLink ケーブルの反対側の端をホスト装置のキーボードポートに接続します。
4. 外部電源コードを PowerLink ケーブルの電源ジャックに差し込みます。

> 電源の AC 入力要件を調べて、電圧が AC コンセントと一致していることを確かめてください。コンセントは、装置の近くの、簡単に手の届く位置になければなりません。

5. AC 電源を変圧器に接続します。
6. ホスト装置の電源をオンにします。

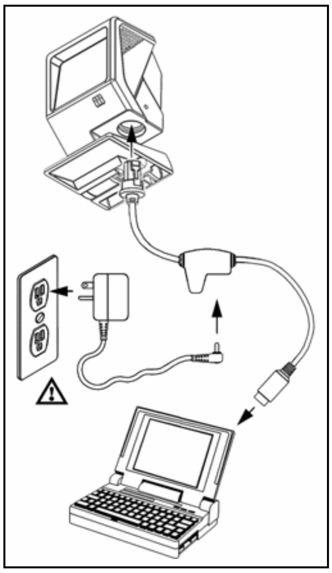


図 11.

> スキャナーに最初に電源が入ると、青い LED が点灯します。スキャナーはビープ音を出すと同時に、白い LED が点滅します。

> ホスト装置から直接 MS3580 の電源をとると、スキャナーまたはコンピュータの動作に影響が出ることがあります。すべてのコンピュータが、キーボードポートから電流を供給するわけではありません。 そのため、Metrologic 社は、外部電源の使用をお薦めします。詳細については、Metrologic 社のカスタマーサービス代理店までご連絡ください。

> **注意：**
> 適用される基準を順守するためには、スキャナーに接続されているすべての回路は、EN/IEC 60950 に従って、SELV（Safety Extra Low Voltage）の要件を満たしていなければなりません。
>
> 基準 CSA C22.2 No. 60950/UL 60950 および標準 EN/IEC 60950 を順守するためには、電源は、一定の電源に適用される性能要件を満たしている必要があります。

フルスピード USB または低速 USB

1. ホスト装置の電源をオフにします。
2. USB ケーブルのオスの 10-ピン RJ45 端を MS3580 の 10-ピンソケットに差し込みます。
3. USB インターフェイスケーブルの反対側をホスト装置の USB ポートに差し込みます。
4. ホスト装置の電源をオンにします。

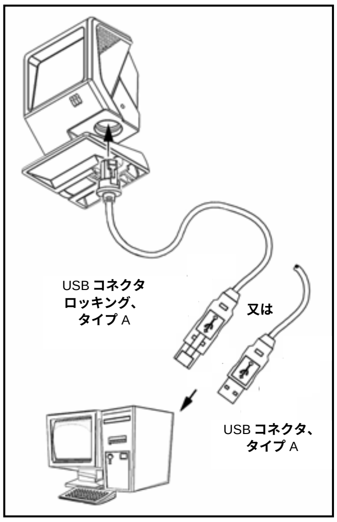


図 12

スキャナーに最初に電源が入ると、青い LED が点灯します。スキャナーはビープ音を出すと同時に、白い LED が点滅します。

初期設定で、MS3580-**38** は、USB キーボードエミュレーションモードが許可状態で出荷されます。
USB シリアルエミュレーションモードに関する MS3580-**38** の設定の詳細については、MetroSelect 設定ガイド（MLPN 00-02407）の*セクション P: 低速 USB* を参照してください。

スキャナーを PC の USB ポートに差し込んでも、PC に走査情報が表示されるとは限りません。 適切な通信を行うには、ソフトウェアドライバと正しい設定値をセットする必要があります。

注意:
適用される基準を順守するためには、スキャナーに接続されているすべての回路は、EN/IEC 60950 に従って、SELV（Safety Extra Low Voltage）の要件を満たしていなければなりません。

基準 CSA C22.2 No. 60950/UL 60950 および標準 EN/IEC 60950 を順守するためには、電源は、一定の電源に適用される性能要件を満たしている必要があります。

スキャナーの操作

設定可能な一次および二次走査パターンモード

MS3580 で利用できる走査パターンモードは 2 つあります。

- **一次**走査パターンモードは、スキャナーが開始したときの初期設定の走査パターンです。
- **二次**走査パターンモードは、スキャナーの側面にあるボタンを押すと起動されるモードです。このモードは、ボタンモードとも呼びます。Quantum のボタンモードについて、また、それぞれのモードの例についての詳細は、以下の*設定可能なボタン機能*を参照してください。

> ボタンをダブルクリックした後、または装置が事前設定制限時間内にバーコードの走査を行わない場合には、スキャナーは、一次走査パターンモードに戻ります。

各パターンモードは、以下に示す 3 つの走査パターンの 1 つを使用するように設定できます。初期設定の走査パターン設定値を変更する方法については、MetroSelect 設定ガイドを参照してください。

- オールスキャンライン（全方向読み取り）
- シングルライン（メニュー読み取り）
- 水平ラスター

> CodeGate が*許可状態*の場合には、走査時に、二次パターンモードに適用されます。
> CodeGate およびボタンの詳細については、*設定可能なボタン機能*を参照してください。

設定可能なボタン機能

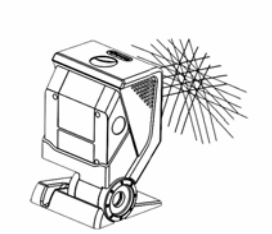
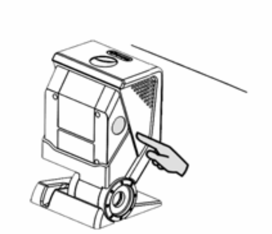
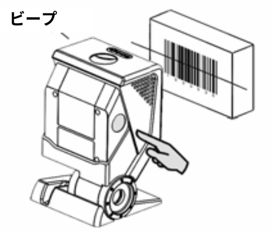
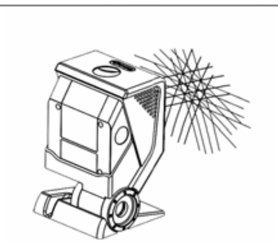
MS3580 の側面にあるボタンは、以下の 4 モードの 1 つで機能するように設定することができます。

- CodeGate 許可におけるボタン*クリック*モード（初期設定）
- CodeGate 禁止のおけるボタン*クリック*モード
- CodeGate 許可におけるボタン*ホールド*モード
- CodeGate 禁止におけるボタン*ホールド*モード

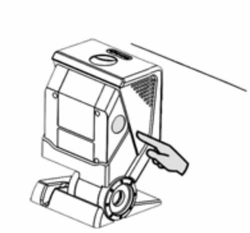
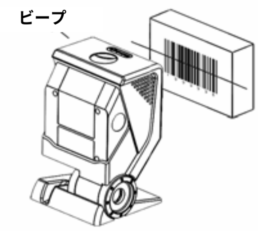
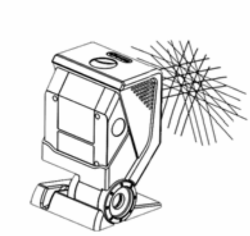
次のページには、4 つの各ボタンモードで動作するように装置を設定している時の、ボタンの働き方の例が含まれています。

スキャナーの操作

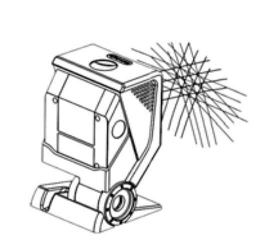
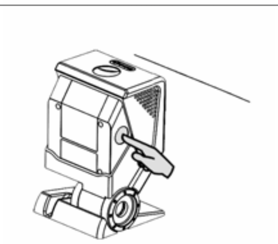
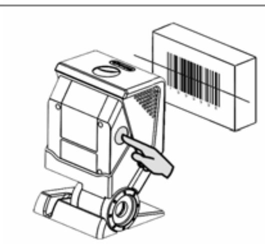
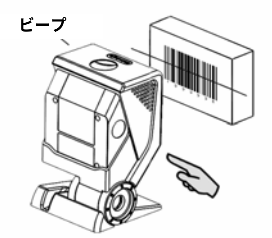
設定可能なボタン機能

二次走査パターン CODEGATE 許可におけるボタンクリックモード	
説明のために、装置の一次走査パターンは*オールスキャンライン（全方向読み取り）*にセットし、二次走査パターンは 5 秒のボタンクリックタイムアウトを設定した状態で*シングルライン（メニュー読み取り）*にセットしてあります。	
	1. スキャナー始動時は、一次走査パターンが起動しています。
	2. 二次走査パターンを起動するには、ボタンを**押して放します**。
	3. バーコードを解読し、送信するには、**ボタンを押して放します**。 スキャナーはビープ音を 1 回鳴らします。
	4. 一次走査パターンを再起動するには、ボタンを**ダブルクリック**するか、何も走査しないまま 5 秒間たつと、装置は自動的に一次走査パターンを再起動します。

設定可能なボタン機能

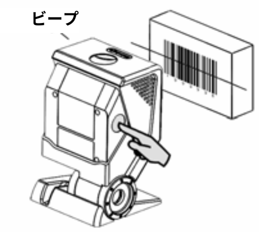
二次走査パターン CodeGate 禁止におけるボタンクリックモード	
説明のために、装置の一次走査パターンは*オールスキャンライン（全方向読み取り）*にセットし、二次走査パターンは 5 秒のボタンクリックタイムアウトを設定した状態で*シングルライン（メニュー読み取り）*にセットしてあります。	
	1. **スキャナー始動時は、一次走査パターンが起動しています。**
	2. **二次走査パターンを起動するには、ボタンを押して放します。**
	3. **バーコードを解読し、送信すると、装置はビープ音を 1 回鳴らします。**
	4. **一次走査パターンを再起動するには、ボタンをダブルクリックするか、何も走査しないまま 5 秒間たつと、装置は自動的に一次走査パターンを再起動します。**

設定可能なボタン機能

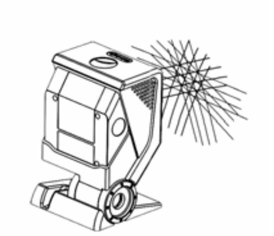
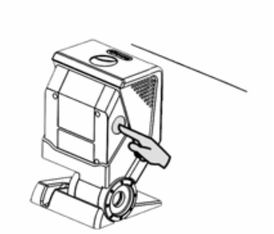
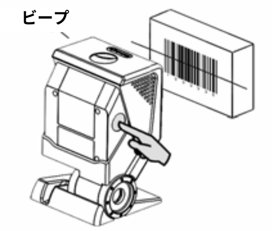
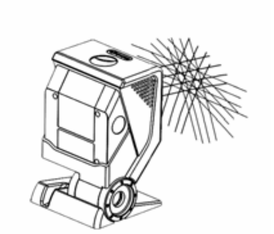
二次走査パターン CodeGate 許可におけるボタンホールドモード	
説明のために、装置*の一次走査パターンは*オールスキャンライン（全方向読み取り）*にセットし、二次走査パターンは 5 秒のボタンクリックタイムアウトを設定した状態で*シングルライン（メニュー読み取り）*にセットしてあります。	
	1. スキャナー始動時は、一次走査パターンが起動しています。
	2. 二次走査パターンを起動するには、ボタンを**押して放します**。
	3. バーコードを走査するには、ボタンを**押し続けながら**、レーザーラインをバーコードに**合わせます**。
	4. バーコードを送信するには、ボタンを**放します**。スキャナーはビープ音を 1 回鳴らします。

スキャナーの操作

設定可能なボタン機能

	5. **さらにバーコードの走査と送信を行うには、ステップ** 2〜4 **を繰り返します。**
	6. **ボタンを放すか、走査フィールドにバーコードが何もないと、一次走査パターンが自動的に再起動します。**

設定可能なボタン機能

二次走査パターン ボタンホールドモード、CodeGate ディスエーブル状態	
説明のために、装置*の一次走査パターンは*オールスキャンライン（全方向読み取り）*にセットし、二次走査パターンは 5 秒のボタンクリックタイムアウトを設定した状態で*シングルライン（メニュー読み取り）*にセットしてあります。	
	1. スキャナー始動時は、一次走査パターンが起動しています。
	2. 二次走査パターンを起動するには、ボタンを**押して放します**。
	3. バーコードを走査し、送信するには、ボタンを**押し続けながら**、レーザーラインをバーコードに**合わせます**。スキャナーは 1 回ビープ音を鳴らして、バーコードの走査と送信が行われたことを示します。
	4. ボタンを放すか、走査フィールドにバーコードが何もないと、一次走査パターンが自動的に再起動します。

スキャナーの操作

可聴音インジケータ

MS3580 は、動作中に可聴音のフィードバックを行い、スキャナーのステータスを示します。ビープの音に、8 つの設定値を使えます（標準音、6 つの代わりの音、音なし）。 ビープの音を変更する方法については、MetroSelect 設定ガイド（00-02407）を参照してください。

ビープ音 1 回

スキャナーの電源を*初めて*入れると、白い LED が点滅し、青い LED が点灯し、スキャナーのビープ音が 1 回鳴ります（*ビープ音が鳴っている間は、白い LED は点灯したままです*）。これで、スキャナーの走査準備が整います。

スキャナーが*正常に*バーコードを読み取ると、白い LED が点滅し、スキャナーはビープ音を鳴らします（*そうするように設定されている場合*）。スキャナーがビープ音を 1 回鳴らさず、白い LED が点滅しない場合には、バーコードの読み取りは、正常に*行われていません*。

ラズベリー音（ブーッという音）

これは、故障を示す音です。21 ページの*故障モードインジケータ*を参照してください。

ビープ音 3 回 - 操作中

スキャナーを設定モードにすると、白い LED が点滅し、スキャナーは同時にビープ音を 3 回鳴らします。装置が設定モードにある間は、白と青の LED が点滅し続けます。設定モードを終了すると、スキャナーはビープ音を 3 回鳴らし、白い LED は点滅を止めます。

設定時、ビープ音が 3 回鳴る時は、標準の走査モード中に通信タイムアウトが起きたことも示します。

1 コードプログラミング使用時、スキャナーは、現在選択されている音、少し間をおいて、高い音、低い音の 3 回ビープ音を鳴らします。これは、シングル設定バーコードが*正常に*設定されたことを、ユーザーに知らせます。

ビープ音 3 回 – 電源投入時

これは、故障を示す音です。21 ページの*故障モードインジケータ*を参照してください。

スキャナーの操作

ビジュアルインジケータ

Quantum*T* には、装置を操作しているときのスキャナーの状態と現在の走査ステータスを示す、青と白の LED が付いています。

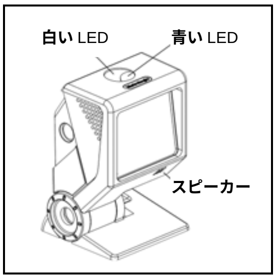


図 13.　　スピーカーの位置と LED の位置

LED が点灯しない

スキャナーがホストまたは変圧器から電力が供給されていない場合には、LED は点灯しません。また、何らかの理由で、レーザーがオフになっているときにも LED は点灯しません。

青い LED が点灯

レーザーが作動中の時は、青い LED が点灯します。レーザーが作動を停止するまで、青い LED は点灯したままになります。

青い LED が点灯し、白い LED が 1 回点滅

スキャナーがバーコードを正常に読み取ると、白い LED が点滅し、スキャナーはビープ音を 1 回鳴らします。白い LED が点滅しない場合、または、スキャナーがビープ音を 1 回鳴らさない場合には、バーコードの読み取りは正常に行われていません。

白と青の LED が点灯

走査が正常に行われた後、スキャナーはデータをホスト装置に送信します。一部の通信モードでは、データの受信準備ができた時をホストがスキャナーに通知する必要があります。ホストが情報を受信する準備ができていない場合、データが送信できるようになるまで、スキャナーの白い LED は点灯したままになります。

青の LED と白の LED が交互に点滅

これは、スキャナーがプログラムモードにあることを示します。ラズベリー音が鳴る場合は、このモードで無効なバーコードが走査されたことを示します。

白い LED が点灯し、青い LED が消えている

これは、スキャナーがホストからの通信を待機していることを示します。

故障モードインジケータ

青い LED が点滅し、ラズベリー音が 1 回鳴る

これは、スキャナーのレーザーサブシステムが故障していることを示します。
修理のために装置を認定サービスセンターに送ってください。

青い LED と白い LED が点滅し、ラズベリー音が 2 回鳴る

これは、スキャナーのモーターが故障していることを示します。
修理のために装置を認定サービスセンターに送ってください。

両方の LED とも消えていて、ラズベリー音が連続的に鳴る

電源投入時、スキャナーがラスベリー音を連続的に鳴らしている場合には、スキャナーの電子部分が故障しています。修理のために装置を認定サービスセンターに送ってください。

ビープ音 3 回－電源投入時

電源投入時、スキャナーがビープ音を 3 回鳴らす場合には、スキャナー設定値を保持している不揮発性メモリーが故障しています。修理のために装置を認定サービスセンターに送ってください。

フィールド深度の仕様*

標準の走査区間

仕様は、0.33 mm（13 mil）のバーコードに基づいています。

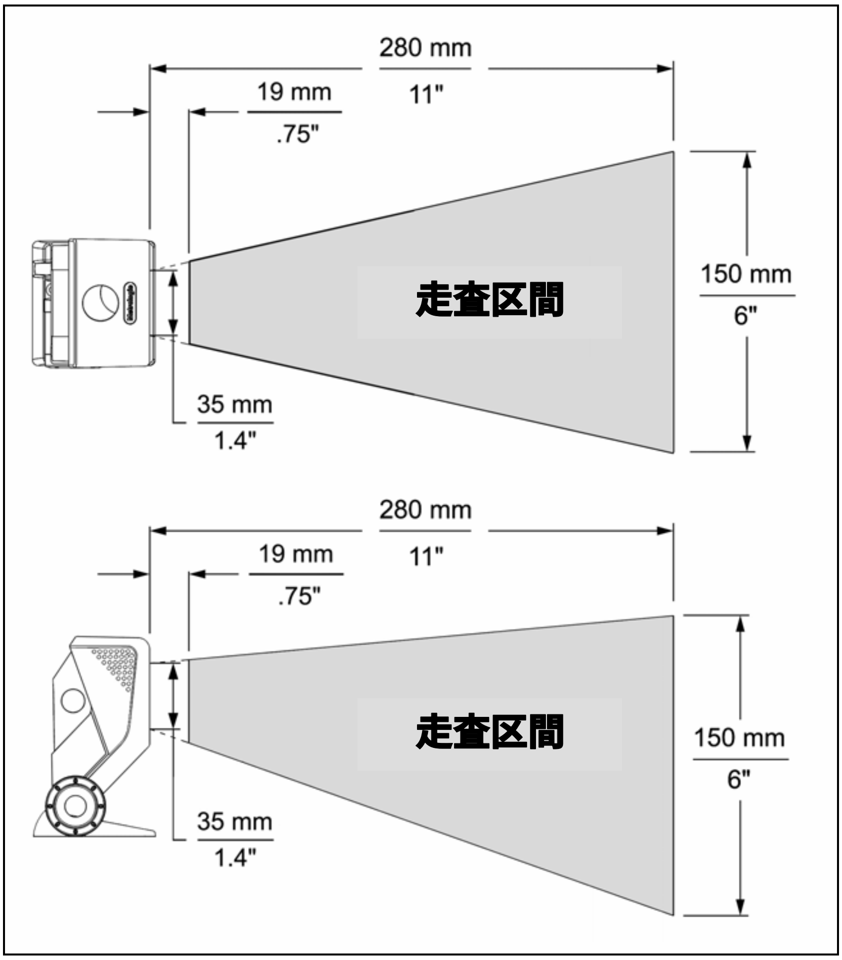


図 14. MS3580† 標準のフィールド深度

* *すべての仕様は、予告なく変更されることがあります。*

† *台座スタンド付きのMS3580*

フィールド深度の仕様*

低減走査区間

仕様は、0.33 mm（13 mil）のバーコードに基づいています。

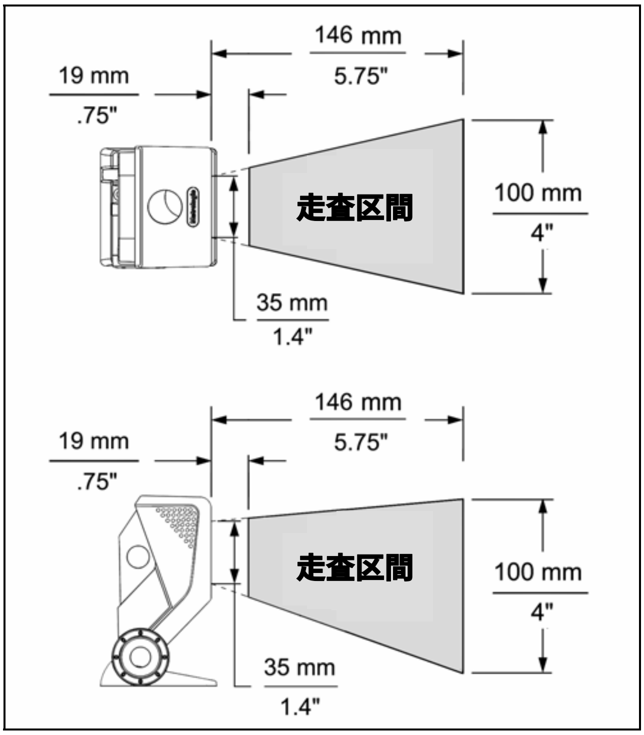
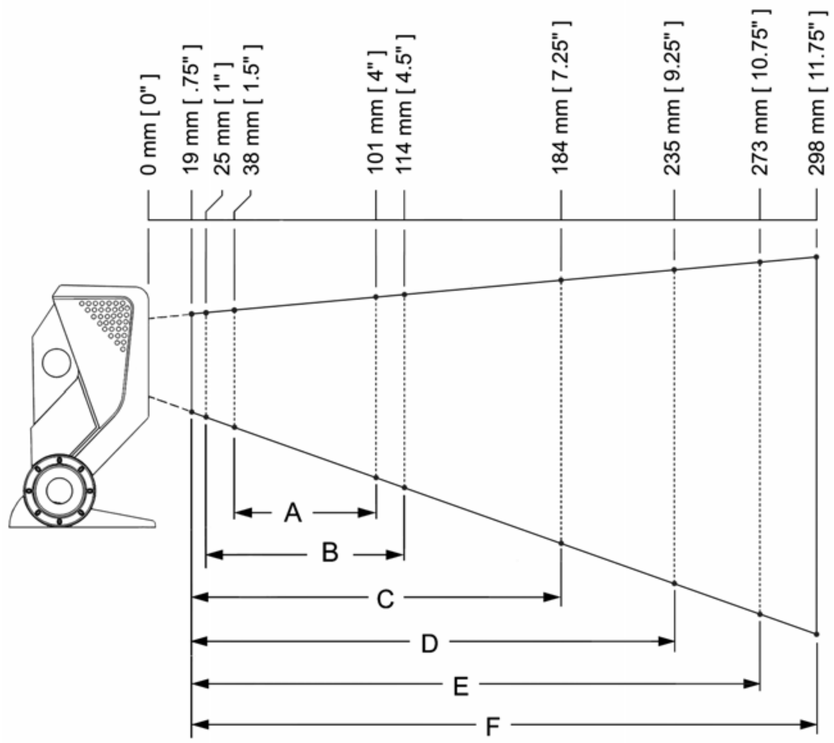


図 15. MS3580† 低減フィールド深度

* *すべての仕様は、予告なく変更されることがあります。*
† *台座スタンド付きのMS3580*

バーコードエレメント幅別のフィールド深度*

標準走査区間



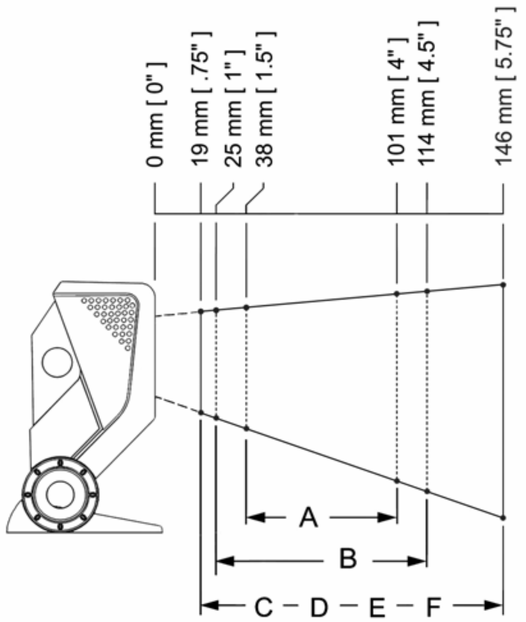
最小バーコードエレメント幅						
	A	**B**	**C**	**D**	**E**	**F**
mm	.13	.15	.19	.25	.33	.66
mils	5.2	5.7	7.5	10	13	26

図 16. バーコードエレメント幅別の標準走査区間

* *すべての仕様は、予告なく変更されることがあります。*

バーコードエレメント幅別のフィールド深度*

低減走査区間



最小バーコードエレメント幅						
	A	B	C	D	E	F
mm	.13	.15	.19	.25	.33	.66
mils	5.2	5.7	7.5	10	13	26

図 17. バーコードエレメント幅別の低減走査区間

* *すべての仕様は、予告なく変更されることがあります。*

IR 起動範囲*

Quantum*T*の初期設定の電力節約モード[†] は、*レーザーOFF*です。この電力節約モードは、設定された非使用時間の経過後に、レーザーをOFFにします。起動範囲内で何らかの動きをIRが検出すると、スキャナーは電力節約モードを終了します。レーザーは、バーコード認識、解読、送信に備えて、スキャナーの準備に自動的に戻ります。

標　準

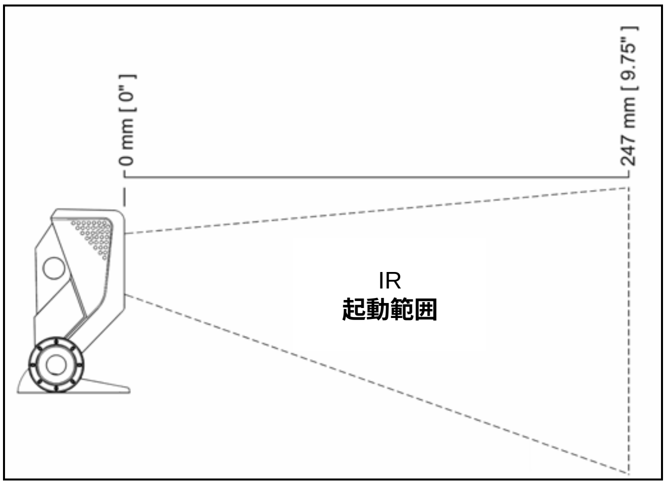


図 18. IR 標準起動範囲

低　減

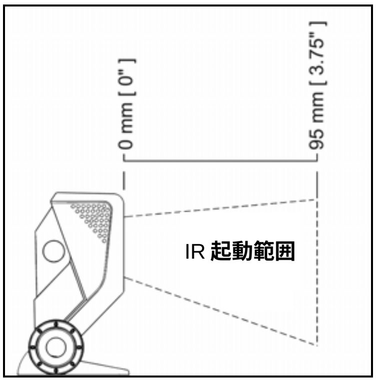


図 19. 低減 IR 起動範囲

* *すべての仕様は、予告なく変更されることがあります。*
[†]*設定可能な電力節約モードの詳細については、MetroSelect設定ガイド（00-02407）を参照してください。*

トラブルシューティングガイド

以下に示すトラブルシューティングガイドは、参考のために載せています。46 **ページの限定保証条件を維持するには、**Metrologic **社代理店までご連絡ください（**1-800-ID-METRO **または** 1-800-436-3876**）。**

症　状	考えられる原因	解決策
すべてのインターフェイス		
装置の LED が点かず、ビープ音が鳴らず、モーターが回転しない。	スキャナーに電力が供給されていない。	変圧器、コンセント、電源コードを調べます。ケーブルがスキャナーに差し込まれていることを確認します。
装置の LED が点かない、および／または、ビープ音が鳴らない。	ホストからスキャナーに電力が供給されていない。	一部のホストシステムは、MS3580 を動作させるのに十分な電流を供給できません。スキャナーに付属の電源を使用してください。
コードの提示に複数回の走査が必要。	同一シンボルタイムアウトの設定が短すぎる。	同一シンボルタイムアウトの時間を長く調整します。
装置の電源は入るが、ビープ音が鳴らない。	ビープ装置がディスエーブル状態になっている。	ビープ装置を許可状態にします。
	音が選択されていない。	音を選択します。
装置の電源は入るが、走査をしない、および／または、ビープ音が鳴らない。	許可状態になっていないコードを走査しようとした。	UPC/EAN、Code 39、インターリブド 2 of 5、Code 93、Code 128、Codabar は初期設定で許可状態になっています。読み取るバーコードのタイプが選択されていることを確認してください。
	スキャナーが、キャラクタ長ロックまたは最低長にプログラムされており、走査するバーコードがプログラムの基準を満たしていない。	走査するバーコードが基準内に入っていることを確認します。 *非 UPC/EAN コードの場合によく起こります。スキャナーは、最低 4 キャラクタバーコードに初期設定されます。*

トラブルシューティングガイド

症　状	考えられる原因	解決策
すべてのインターフェイス		
バーコードの走査は行うが、最初の走査後にロックする（*白い* LED *は点灯したまま*）。	何らかの形式のホストハンドシェイキングをサポートするようにスキャナーが設定されているが、信号を受信しない。	ACK/NAK、RTS/CTS、XON/XOFF、D/E をサポートするようにスキャナーが設定されている場合、ホストケーブルとホストがハンドシェイキングを正しくサポートしていることを確認します。
走査は行うが、ホストに送信されたデータが間違っている。	スキャナーのデータ形式が、ホストシステム要件と一致していない。	スキャナーのデータ形式が、ホストが要求している形式と一致していることを確認します。 スキャナーが正しいホストポートに接続されていることを確認します。
あるバーコードでスキャナーがビープ音を鳴らすが、同じコードの他のバーコードではビープ音を鳴らさない。	バーコードの印刷品質が疑わしい。	プリンタのタイプ、および／または、プリンタの設定値に問題があるかもしれません。 印刷モードを調べるか、プリンタの設定値を変更します。 たとえば、エコノモードまたはハイスピードに変更します。
	バーコードのアスペクト比が、許容範囲を超えている。	
	バーコードの印刷が間違っている。	チェックデジットキャラクタなのか、境界問題なのかを調べます。
	バーコードのタイプについて、スキャナーの設定が正しくない。	チェックデジットが正しく設定されているかどうか調べます。
	最小シンボル長設定値がバーコードで働かない。	正しい最小シンボル長が設定されているかどうか調べます。

トラブルシューティングガイド

<table>
<tr><th>症　状</th><th>考えられる原因</th><th>解決策</th></tr>
<tr><td colspan="3">すべてのインターフェイス</td></tr>
<tr><td>電源投入時、ビープ音が 3 回鳴る。</td><td>不揮発性 RAM の異常。</td><td>Metrologic 社のサービス代理店に連絡してください。</td></tr>
<tr><td>電源投入時、ラズベリー音が連続して鳴る。</td><td>RAM または ROM の異常。</td><td>Metrologic 社のサービス代理店に連絡してください。</td></tr>
<tr><td>電源投入時、ラズベリー音が 1 回鳴り、青い LED が点滅する。</td><td>VLD の異常。</td><td>Metrologic 社のサービス代理店に連絡してください。</td></tr>
<tr><td>電源投入時、ラズベリー音が 2 回鳴り、両方の LED が点滅する。</td><td>スキャナーモーターの異常。</td><td>Metrologic 社のサービス代理店に連絡してください。</td></tr>
<tr><td colspan="3">RS232 のみ</td></tr>
<tr><td rowspan="3">電源も正常に入り、走査も正常に行われるが、ホストとの通信が正しく行えない。</td><td>ホストの通信ポートが機能していない、または、設定が正しくない。</td><td rowspan="3">スキャナーと通信ポートのボーレートとパリティが一致していることを確認し、プログラムが RS232 データを受信するようにセットされていることを確認します。</td></tr>
<tr><td>ケーブルが適切な通信ポートに接続されていない。</td></tr>
<tr><td>通信ポートが正しく働いていない。</td></tr>
</table>

トラブルシューティングガイド

症　状	考えられる原因	解決策
RS232 のみ		
ホストはデータを受信するが、データが正しくないように見える。	スキャナーとホストが同じインターフェイスに設定されていない可能性がある。	スキャナーとホストが同じインターフェイスに設定されていることを調べます。
キャラクタが抜けている。	送信出力に、インターキャラクタディレーを追加する必要がある。	MetroSelect 設定ガイド（MLPN 00-02407）を使用して、送信出力にインターキャラクタディレーを追加します。
キーボードウェッジのみ		
バーコードの走査はするが、データがない。	装置の設定が正しく行なわれていない可能性がある。	スキャナーが適切なモードに設定されていることを確認します。
走査はするが、データが正しくない。	装置の設定が正しく行なわれていない可能性がある。	正しい PC タイプ（AT、PS2、XT）が選択されていることを確認します。
		正確な国コードおよびデータ形式が選択されていることを確認します。
		インターキャラクタディレーを調整します。
各キャラクタの送信を行わない。	装置の設定が正しく行なわれていない可能性がある。	インタースキャンコードディレー設定値を大きくします。F0 ブレイクが送信されるかどうか調べます。両方の設定値を試す必要があるかもしれません。
英数字が小文字で示される。	コンピュータが Caps Lock モードになっている。	PC が Caps Lock モードで動作しているかどうかを調べるために、スキャナーの *Caps Lock 検出*設定値を許可状態にします。
いくつかのキャラクタを除けば、すべて正しく機能する。	これらのキャラクタが、現在、国のキールックアップテーブルでサポートされていない可能性がある。	スキャナーを *Alt Mode* で動かしてみてください。

		MS3580	
操　作			
	光源：	**V**isible **L**aser **D**iode（VLD）@ 650 nm	
	レーザー出力：	1.1 mW	
	ノーマルフィールド深度：	19 mm～273 mm（.75"～10.75"）	0.33 mm（13 mil）**バーコード**
	縮小フィールド深度：	19 mm～146 mm（.75"～5.75"）	
オムニスキャン			
	走査速度：	1650 **走査線/秒**	
	走査線数：	20	
単線			
	走査速度：	80 **走査線/秒**	
	走査線数：	1	
ラスタ			
	走査速度：	320 **走査線/秒**	
	走査線数：	4	
	モーター速度：	5000 RPM	
	最低バー幅：	0.127 mm（5.0 mil）	
	デコード：	**全標準** 1-D **バーコード。**RSS-14、RSS-Expanded、**および** RSS-14 Limited **を含む。**	
	システムインターフェイス：	RS232、**キーボードウェッジ、スタンドアロンキーボード、ライトペンエミュレーション、**IBM468x/469x、USB**（低速および全速）、レーザーエミュレーション、**RS232 TTL、OCIA	
	印刷鮮明度：	35% **最低反射率差**	
	読込み文字数：	80 **データ文字まで** **最大数はバーコードの種類と密度によって異なる。**	
	警告音操作：	7 **段階、または無音**	
	インジケータ（LED）**：**	**青 ＝ レーザーオン、スキャン可**	
		白 ＝ 読込み良好、デコード中	

仕様は通知することなく変更されます。

	MS3580
機器仕様	
幅：	63 mm（2.48"）
深度：	50 mm（1.97"）
高さ：	68 mm（2.68"）
重さ：	6 oz（170 g）
電気的仕様	
電圧：	5VDC±0.25V
動作電力：	1.375 W
待機時電力：	1.0 W
動作電流：	275 mA（通常 5VDC 時）
待機時電流：	230 mA（通常 5VDC 時）
DC 変圧器：	クラス II、5.2VDC @ 650 mA
レーザークラス 1：	IEC 60825-1：1993＋A1：1997＋A2：2001 EN 60825-1：1994＋A11：1996＋A2：2001
EMC：	FCC, ICES-003 ＆ EN 55022 クラス A
環境	
実用温度：	－20°C～40°C（－4°F～104°F）
保存温度：	－40°C～60°C（－40°F～140°F）
湿度：	5%～95%の相対湿度、結露なし
汚染防止：	密封して空気中の粒子状汚染物を防ぐ
換気：	不要

仕様は通知することなく変更されます。

各スキャナのモデル番号には、スキャナ番号と工場出荷時設定の通信プロトコルが含まれています。

スキャナ	バージョンID	通信プロトコル
MS3580	9	OCIAおよびRS232 送信／受信
	11	IBM 46XXおよび全RS232C
	38	RS232 低速 USB, キーボードエミュレーションまたはシリアルエミュレーション
	40	全速USB
	41	全RS232C／ライトペンエミュレーション
	47	キーボードウェッジ、スタンドアロンキーボード、および RS232 送信／受信
	104	RS232、**T**ransistor - **T**ransistor **L**ogic（TTL）, レーザーエミュレーション

埋め込み式 PC キーボードウェッジインターフェイスの MS3580 スキャナは、キーボードエミュレーションでの使用に対してのみ設計されています。その他の Metrologic スキャナで用意されている多くの RS232 プログラム可能な機能（フォーマッティングなど）も、キーボードウェッジ機能として利用できます。

以下の項目はキーボードウェッジに固有の重要な選択可能オプションです。

キーボードタイプ

- ** AT（IBM® PS2 モデル 50、55、60、80 を含む）
- XT
- IBM PS2（モデル 30、70、8556 を含む）

キーボード国タイプ

- アメリカ**
- ベルギー
- フランス
- ドイツ
- イタリア
- 日本
- スペイン
- スイス
- イギリス

** 初期設定値。初期設定値の一覧表は、本ガイド34 ページの*初期設定値 - 通信パラメータ*をご覧ください。初期設定値の変更方法については、MetroSelect®構成ガイド（MLPN 00-02407）、もしくは MetroSet2 のヘルプファイルを参照してください。

初期設定値ー通信パラメータ

スキャナの多くの機能は「設定する」、つまり使用可能にしたり、無効にしたりすることができます。スキャナは初期設定の状態に設定され、出荷されます。スキャナの初期設定パラメータには、次のページの表でアスタリスク（*）が付加されています。初期設定欄にアスタリスクが無い場合は、初期設定値はオフ、または無効です。すべてのインターフェイスが全パラメータをサポートしているわけではありません。インターフェイスが次のページの表に示されているパラメータをサポートしている場合には、チェックマーク（✓）が表示されています。

パラメータ	初期設定	OCIA	USB	RS232* または RS232 TTL	ライトペン	IBM 46XX	KBW	レーザーエミュレーション
UPC/EAN	*	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Code 128	*	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Code 93	*	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Codabar	*	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
インターリブド 2 of 5（ITF）	*	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
MOD 10 ITF チェック		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Code 11		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Code 39	*	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Full ASCII Code 39		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
MOD 43 Code 39 チェック		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
MSI-Plessey		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
MSI-Plessey 10/10 チェックディジット		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
MSI-Plessey MOD 10 チェックディジット		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Paraf サポート		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
ITF シンボル長	可視	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
最低シンボル長	4	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
シンボル長ロック	なし	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
RSS14 使用可能		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
RSS14 ID “]e0”	*	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
RSS14 App ID “01”	*	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
RSS14 チェックディジット	*	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
RSS 拡張使用可能		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓

初期設定値ー通信パラメータ

パラメータ	初期設定	OCIA	USB	RS232* または RS232 TTL	ライトペン	IBM 46XX	KBW	レーザーエミュレーション
拡張 ID “]e0”	*	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
RSS 制限付き使用可能		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
RSS 制限 ID “]e0”	*	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
RSS 制限 App ID “01”	*	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
RSS 制限チェックディジット	*	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Code 39 と同じ高さのバー	*				✓			✓
Code 39 と同じ高さのスペース					✓			✓
スキャンする高さのバー					✓			✓
スキャンする高さのスペース					✓			✓
DTS/SIEMENS		✓						
DTS/NIXDORF	*	✓						
NCR F		✓						
NCR S		✓						
ポールライトペンソース					✓			
警告音	ノーマル	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
警告音／送信シーケンス	送信前	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
通信タイムアウト	なし	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
タイムアウト時のラズベリートーン		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
タイムアウト時 3 警告音		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
タイムアウト時無音	*	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
電力消費モードになるまで	5 分	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
同シンボル再スキャンのタイムアウト：500 ミリ秒 50 ミリ秒ごとのプログラムが可能（最長 6.35 秒）	*	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
文字間遅延 1 ミリ秒ごとのプログラムが可能（最大 255 ミリ秒）	1 msec KBW で 10 msec	✓	✓	✓		✓	✓	
スキャンバッファ数	1	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓

初期設定値ー通信パラメータ

パラメータ	初期設定	OCIA	USB	RS232* または RS232 TTL	ライトペン	IBM 46XX	KBW	レーザーエミュレーション
UPC-A チェックディジット送信	*	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
UPC-E チェックディジット送信			✓	✓	✓	✓	✓	✓
UPC-E 拡張		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
UPC-A から EAN-13 へ変換		✓	✓	✓		✓	✓	
UPC-E に先行ゼロを送信		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
EAN-8 から EAN-13 へ変換		✓	✓	✓		✓	✓	
UPC-A 番号システム送信	*	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
UPC-A 製造者 ID#送信	*	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
UPC-A 項目 ID# 送信	*	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
Codabar 開始文字／停止文字送信		✓	✓	✓		✓	✓	
CLSI 編集（使用可能）		✓	✓	✓		✓	✓	
Code 39 の Mod 43 チェックディジット送信		✓	✓	✓		✓	✓	
Code 39 開始文字／停止文字送信		✓	✓	✓		✓	✓	
Mod 10/ITF 送信		✓	✓	✓		✓	✓	
MSI-Plessey チェック文字送信		✓	✓	✓		✓	✓	
パリティ	スペース			✓				
ボーレート	9600			✓				
8 データビット				✓				
7 データビット	*			✓				
ストップビット	2			✓				
Sanyo ID 文字送信			✓	✓			✓	

パラメータ	初期設定	OCIA	USB	RS232* または RS232 TTL	ライト ペン	IBM 46XX	KBW	レーザー エミュレー ション
Nixdorf ID			✓	✓			✓	
LRC 使用可能			✓	✓			✓	
UPC プレフィックス			✓	✓			✓	
UPC サフィックス			✓	✓			✓	
AIM ID 文字送信			✓	✓			✓	
STX プレフィックス			✓	✓			✓	
ETX サフィックス			✓	✓			✓	
キャリッジリターン	*		✓	✓			✓	
改行ーKBW の初期設定では無効	*		✓	✓			✓	
タブプレフィックス			✓	✓			✓	
タブサフィックス			✓	✓			✓	
"DE"無効コマンド				✓				
"FL"レーザー使用可能コマンド				✓				
DTR ハンドシェーキング サポート				✓				
RTS/CTS ハンドシェーキング				✓				
文字 RTS/CTS	*			✓				
メッセージ RTS/CTS				✓				
XON/XOFF ハンドシェーキング				✓				
ACK/NAK				✓				
2 ディジット補完		✓	✓	✓	code 39 と同じ	✓	✓	code 39 と同じ
5 ディジット補完		✓	✓	✓	code 39 と同じ	✓	✓	code 39 と同じ
Bookland		✓	✓	✓	code 39 と同じ	✓	✓	code 39 と同じ
977（2 ディジット）補完要件		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓

初期設定値ー通信パラメータ

パラメータ	初期設定	OCIA	USB	RS232* または RS232 TTL	ライトペン	IBM 46XX	KBW	レーザーエミュレーション
補完不要	*	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
2 ディジット冗長	*	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
5 ディジット冗長		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
100 ミリ秒で補完検索 100 ミリ秒ごとのプログラム可能 （最長 800 ミリ秒）	*	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
クーポン Code 128		✓	✓	✓	code 39 と同じ	✓	✓	code 39 と同じ
プログラム可能なコード長	7 通り	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
プログラム可能な プレフィックス文字	10 通り		✓	✓			✓	
プログラム可能な サフィックス文字	10 通り		✓	✓			✓	
個々のコードタイプ用 プレフィックス			✓	✓			✓	
編集		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
スキャンコード間遅延 プログラム可能 （100 μ秒ごと）	800 μsec						✓	
機能キー／コントロールキーサポート							✓	
最小エレメント幅 5.6 μ秒ごとにプログラム可能	1msec				✓			✓
ノーマルフィールド深度	*	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
縮小フィールド深度		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓

MetroSet2 プログラムはフラッシュをベースとしたスキャナの Metrologic の新しい機能コンポーネントです。このプログラムによって、Metrologic のユーザーはファームウェアの新規バージョンまたはカスタムバージョンに素早くアップグレードすることができます。このためには、Windows 95 またはそれ以上が動作する PC、およびシリアルポートの使用が必要です。ユーザーはスキャナを PC のシリアルポートに接続し、MetroSet2 プログラムを起動してソフトウェアをアップグレードします。

全 MS3580 は、バージョン番号または通信プロトコルに関わらずアップグレードすることができます。全 RS232（-41）、キーボードウェッジ（-47）、ライトペン（-41）、OCIA（-9）、IBM 468X/469X （-11）、低速 USB（-38）、統合全速 USB（-40）、および RS232 TTL、レーザーエミューレーション（-104）のユニットをアップグレードすることができます。全ユニットをアップグレードするには、電源と PowerLink ケーブル（MLPN 54-54014）が必要です。

RS232 ユニットは、標準の PowerLink ケーブル（MLPN 54-54000x-3）を使用してアップグレードできます。

プログラムは、単純に 1 クリックするだけで操作することができます。ユーザーはまずファイルを選択する必要があります。ファイルの選択、確認を行ってから、スキャナをアップグレードしてください。「Flash Scanner」（スキャナ更新）ボタンを押してスキャナをアップグレードします。ユニットは「更新モード」に変わり、青と白の両 LED が点灯します。ユーザーは画面上の詳細説明を確認しながら処理を行うことができます。アップグレードが完了すると、スキャナのスイッチがオンになり、通常の警告音が 1 度鳴ります。警告音が 2 度鳴った場合は、スキャナのアップグレードは正常に行なわれていません。Metrologic 社のサービス代理店に連絡してサポートを依頼してください。

スキャナピンアウト接続

MS3580 スキャナインターフェイスは 10 ピンのモジュラソケットに接続します。
シリアル#ラベルは、スキャナが工場出荷の際に使用可能とされたインターフェイスを表します。

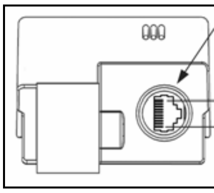


図 20. MS3580 下面図（スタンドを外す）

MS3580-**47** キーボードウェッジとスタンドアロンキーボード	
ピン	機能
1	アース端子
2	RS232 送信出力
3	RS232 受信入力
4	PC データ
5	PC クロック
6	KB クロック
7	PC+5V
8	KB データ
9	+5VDC
10	シールドアース

MS3580-**41** RS232C とライトペンエミュレーション	
ピン	機能
1	アース端子
2	RS232 送信出力
3	RS232 受信入力
4	RTS 出力
5	CTS 入力
6	DTR 入力／LTPN ソース
7	予約済
8	LTPN データ
9	+5VDC
10	シールドアース

MS3580-**40** 全速 USB	
ピン	機能
1	アース端子
2	RS232 送信出力
3	RS232 受信入力
4	RTS 出力
5	CTS 入力
6	USB D+
7	V USB
8	USB D-
9	+5VDC
10	シールドアース

MS3580-**38** RS232 低速 USB	
ピン	機能
1	アース端子
2	RS232 送信出力
3	RS232 受信入力
4	RTS 出力
5	CTS 入力
6	D+
7	V USB
8	D-
9	+5VDC
10	シールドアース

スキャナおよびケーブル終端

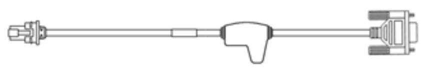
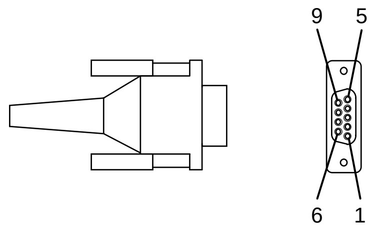
MS3580-**11** IBM 468X/469X	
ピン	機能
1	アース端子
2	RS232 送信出力
3	RS232 受信入力
4	RTS 出力
5	CTS 入力
6	DTR 入力
7	IBM B-送信
8	IBM A＋受信
9	+5VDC
10	シールドアース

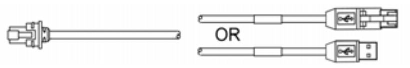
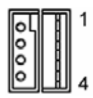
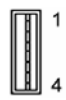
MS3580-**9** OCIA	
ピン	機能
1	アース端子
2	RS232 送信出力
3	RS232 受信入力
4	RDATA
5	RDATA 戻り
6	クロックイン
7	クロックアウト
8	クロックイン戻り／ クロックアウト Rtrn
9	+5VDC
10	シールドアース

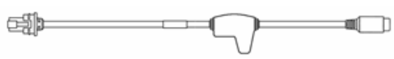
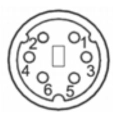
MS3580-**104** RS232 TTL、レーザーエミュレーション	
ピン	機能
1	アース端子
2	RS232 送信出力
3	RS232 受信入力
4	RTS 出力（TTL RS232）／フリップセンス
5	CTS 入力（TTL RS232）／トリガーエミュレーション出力
6	DTR 入力（TTL RS232）／スキャン使用可能
7	受信（TTL RS232）／良好な読込み
8	送信（TTL RS232）／スキャンデータ
9	+5VDC
10	シールドアース

スキャナおよびケーブル終端

ケーブルコネクタ構成 （ホスト側）

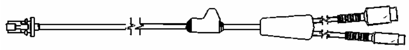
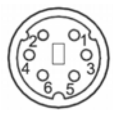
「標準」PowerLink ケーブル MLPN 54-54000*x* -3 *直線*		
ピン	**機　能**	 9-ピン D-タイプコネクタ
1	アース端子	
2	RS232 送信出力	
3	RS232 受信入力	
4	DTR 入力／ライトペンソース	
5	電力／信号用接地	
6	ライトペンデータ	
7	CTS 入力	
8	RTS 出力	
9	+5VDC	

USB 電力/通信ケーブル MLPN *54-54213x-N-3*、 *54-54214x-N-3 または 54-54235x-N-3*		 	
ピン	**機　能**	 USB タイプ A 電力でのロック	 USB 非ロック
1	PC +5V/V_USB		
2	D-		
3	D+		
4	アース端子		
シールド	シールド		

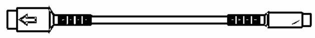
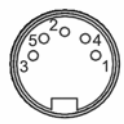
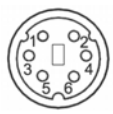
スタンドアロンキーボード PowerLink ケーブル MLPN *54-54020x-3*		
ピン	**機　能**	 6-ピンオス Mini-DIN コネクタ
1	PC データ	
2	接続なし	
3	電力接地	
4	+5VDC KB への PC 電力	
5	PC クロック	
6	接続なし	

スキャナおよびケーブル終端

ケーブルコネクタ構成（ホスト側）

キーボードウェッジ PowerLink ケーブル *54-54002x -3*		
ピン	**機　能**	 5-ピン DIN、メス
1	キーボードクロック	
2	キーボードデータ	
3	接続なし	
4	電力接地	
5	+5 ボルト DC	
ピン	**機　能**	 6-ピン DIN、オス
1	PC データ	
2	接続なし	
3	電力接地	
4	+5 ボルト DC	
5	PC クロック	
6	接続なし	

Metrologic では、片終端が 5 ピン DIN オスコネクタ、もう片終端が 6 ピン Mini-DIN メスコネクタのアダプタケーブルを提供します。終端での要件に従って、適切なアダプタの終端を PowerLink ケーブルに接続し、必要な終端をキーボードと PC のキーボードポート用に空けておきます。

キーボードウェッジアダプタケーブル		
ピン	**機　能**	 5-ピン DIN、オス
1	PC ロック	
2	PC データ	
3	接続なし	
4	電力接地	
5	+5 ボルト DC	
ピン	**機　能**	 6-ピン Mini DIN、メス
1	キーボードデータ	
2	接続なし	
3	電力接地	
4	+5 ボルト DC	
5	キーボードクロック	
6	接続なし	

レーザーと製品の安全

⚠ 注意

本書に指定された手順のコントロール、または調整、またはパフォーマンス以外を使用すると、有害なレーザー光が照射される可能性があります。どのような状況においても、レーザースキャナを修理しないでください。スキャナが機能しない場合でも、レーザー光を決して見ないでください。またスキャナを開けて機器内部を調べたりしないでください。有害なレーザー光を浴びる可能性があります。レーザーを装備した光学機器を使用すると、眼に危険が及ぶ可能性が高くなります。

クラス1　レーザー製品

レーザーおよび製品の安全性

通　告

本機器はテストを行い、FCC 規則の第 15 部に従って、クラス A ディジタルデバイスの制約を順守していることを確認しました。これらの制約は、機器を商用環境で使用する場合に有害な干渉を適切に保護するよう設計されています。この機器は無線周波数エネルギーを生成し、それを使用して放射することができます。また取扱説明書に従ったインストールおよび使用を行っていない場合は、無線通信に有害な干渉を引き起こす可能性があります。居住区において当機器を操作すると、有害な干渉を引き起こす可能性があります。この場合、ユーザーは自費でこの干渉を正す必要があります。許可されていない変更、または修正を当機器に行った場合、当機器を操作する権限を取消される可能性もあります。

本デバイスは FCC 規則の第 15 部に準拠しています。操作は以下の 2 つの条件を前提とします。（1）本デバイスが有害な干渉を引き起こすとは思われないこと。また（2）本デバイスは、誤動作を引き起こすものも含め、いかなる干渉でも受け付けられること。

注
本クラス A ディジタル器具は、カナダの ICES-003 に準拠しています。

欧州標準

警告 これはクラス A 製品です。国内環境において、本製品は無線妨害を引き起こす可能性があり、適切な処置を必要とする場合もあります。

限定保証

MS3580 Quantum*T*™スキャナは、米国ニュージャージー州ブラックウッドにある Metrologic 社によって製造されています。MS3580 Quantum*T* スキャナには製造日より１年間の限定保証があります。Metrologic 社では、すべての MS3580 Quantum*T* スキャナが構成部品、製品、および設計に欠陥が無いことを保証し、それを明示しています。またその製造およびラベル付けは、それに関したすべての適切な米国の連邦、州および地域の法律、規制、および条令に従って行われています。

本保証は、製品の修正、交換、また Metrologic 社の判断による購入金額の払戻しに限られています。欠陥のある機器は、米国のニュージャージー州ブラックウッド、スペインのマドリッド、または中国の宿州にある Metrologic 社修理施設のいずれかに返品する必要があります。このような場合、適切な Metrologic 社カスタマーサービス／修繕部門に連絡し、RMA（Returned Material Authorization：返品許可）番号を取得してください。

機器の障害が本保証の範囲内であると判断される状況において、Metrologic 社は独自の判断によって、製品を修繕するか、あるいはその製品を機能的に同等な機器と交換して、修繕または交換した製品を
代理店、卸売業者または再販業者、あるいは最終消費者に関わらず無料で返送するか、購入価格と同じ金額を返金します。

本限定保証では、悪用、誤用、怠慢、不適切なインストレーション、また事故、あるいは本製品を機械的、電気的またはコンピュータのシステムに組込むことによって生じる使用または誤用による損害の
対象となった製品を保証範囲とすることはありません。Metrologic 社の修繕部門または許可された修繕センター以外の誰かの手によって本製品が開けられた場合は、本保証は無効となります。

本限定保証は、法的な権利を除いた他すべての保証に代わるものであり、明示的または暗示的に、一様のコマーシャルコード下での特定の目的に対する市場性および適合性の保証、または慣習や行為を逸脱したものについては限定すること明確に除外します。ここに記載されている権利と賠償は限定されたものであり、その他の権利または賠償に代わるものです。二次的な間接的障害、それに付随した損害、
人または所有物への損害、または業務や所有物への影響、あるいはその他製品による直接的または間接的な損害もしくは支出については、本保証に記載されているものを除き、いかなる状況でも Metrologic 社が責任を負うものではありません。また Metrologic 社の責任は、いかなる場合においても製品に対して実際に支払われた金額を超えることはありません。Metrologic 社はここに記載された製品を変更する権利を有しています。

本社
NORTH AMERICA
Metrologic Instruments, Inc.
90 Coles Rd.
Blackwood, NJ 08012-4683
Customer Service Department
Tel： 1-800-ID-METRO
Fax： 856-228-6673
Email： info@metrologic.com

METROLOGIC EUROPEAN REPAIR CENTER (MERC)
Metrologic Eria Ibérica, SL
C/Alfonso Gomez, 38-40, 1D
28037 Madrid
Tel： +34 913 751 249
Fax： +34 913 270 437

MTLG AUTO ID INSTRUMENTS (SHANGHAI) CO., LTD
Suzhou Sales Office
BLK A, Room# 03/03-04
No.5 Xinghan Street, Xinsu Industrial Square
China-Singapore Suahou Industrial Park, Suzhou, PRC
Tel： 86-512-67622550
Fax： 86-512-67622560
Email： info@cn.metrologic.com

特　許

特許情報

本 METROLOGIC **製品は、**1 **つもしくは複数の以下の米国特許によって保護されています。**

米国特許番号;
5,216,232; 5,260,553; 5,340,971; 5,424,525; 5,484,992; 5,525,789; 5,528,024; 5,557,093; 5,616,908; 5,627,359; 5,637,852; 5,661,292; 5,777,315; 5,789,730; 5,789,731; 5,811,780; 5,828,048; 5,844,227; 5,925,870; 6,029,894; 6,098,885; 6,209,789; 6,257,492; 6,286,760; 6,299,067; 6,347,743; 6,412,696; 6,460,767;

ライセンス権利またはサブライセンスは供与していません。明示的もに暗示的にも禁反語、またその他 METROLOGIC **社あるいはサードパーティの知的所有権（** METROLOGIC **社にライセンス供与されたサードパーティの権利かどうかは関係なく）の下に保護されます。上記のサードパーティの特許を含めて物理的にユーザーに転用された** METROLOGIC **社製品に表される、またはそれに含まれる特定の機器、回路、およびデバイスの通常使用を暗に了承している場合、および** METROLOGIC **社のライセンス権限に記された条件、約款、および制約の範囲内である場合は除きます。**

その他各国の特許については保留されています。

Index

所在地及び連絡先

北米コーポレート本社

米国、ニュージャージー
Metrologic Instruments, Inc.
Tel： 1-800-ID-METRO　Fax： 856-228-6673
Email： info@metrologic.com

中南米

ブラジル、サンパウロ
Metrologic do Brasil Ltda.
Tel： 55-11-5182-8226　Fax： 55-11-5182-8315
Email： info@br.metrologic.com

ブラジル、サンパウロ以外
Metrologic South America
Tel： 55-11-5182-7273　Fax： 55-11-5182-7198
Email： info@sa.metrologic.com

アジア本社

アジア、シンガポール
Metrologic Asia (Pte) Ltd
Tel： (65) 6842-7155　Fax： (65) 6842-7166
Email： info@sg.metrologic.com

中国
MTLG Auto ID Instruments (Shanghai) Co., Ltd
Tel： 86-2158692780　Fax： 86-21-58692782
Email： info@cn.metrologic.com

Metro (Suzhou) Sales Office
Tel： 86-512-67622550　Fax： 86-512-67622560
Email： info@cn.metrologic.com

Guangzhou Sales Office
Tel： 86-20-38823476　Fax： 86-20-38823477
Email： info@cn.metrologic.com

Beijing Sales Office
Tel/Fax： 86 10 82253472
Email： info@cn.metrologic.com

日本、東京
Metrologic Japan Co., Ltd.
Tel： 81-03-3839-8511　Fax： 81-03-3839-8519
Email： info@jp.metrologic.com

インド、バンガロール
Metrologic India
Tel： +91 80 51256718　Fax： +91 80 51256719
Email： info@in.metrologic.com

欧州/中東/アフリカ本社欧州/中東/アフリカ本社

ドイツ、ミュンヘン
Metrologic Instruments GmbH
Tel： 49-89-89019-0　Fax： 49-89-89019-200
Email： info@europe.metrologic.com

ドイツ/オーストリア/スイス
Tel： 49-89-89019-0　Fax： 49-89-89019-200
Email： info@de.metrologic.com

東欧/中東
Tel： 49-89-89019-222　Fax： 49-89-89019-173

イタリア、ボローニャ
Metrologic Instruments Italia srl
Tel： +39 0 51 6511978　Fax： +39 0 51 6521337
Email： info@it.metrologic.com

フランス、パリ
Metrologic Eria France SA
Tel： +33 (0) 1 48.63.78.78
Fax： +33 (0) 1 48.63.24.94
Email： info@fr.metrologic.com

スペイン、マドリッド
Metrologic Eria Ibérica, SL
Tel： +34 913 272 400　Fax： +34 913 273 829
Email： info@es.metrologic.com

Metrologic European Repair Center (MERC)
Metrologic Eria Ibérica, SL
Tel： +34 913 751 249　Fax： +34 913 270 437

英国、ベイジングストーク
Metrologic Instruments UK Limited
Tel： +44 (0) 1256 365900
Fax： +44 (0) 1256 365955
Email： info@uk.metrologic.com

ロシア、モスクワ
Metrologic Russia
Tel： +7 095 730 7424　Fax： +7 095 730 7425
Email： info@ru.metrologic.com

ポーランド、ワルシャワ
Metrologic Instruments Poland Sp.z o.o
Tel： +48 (22) 545 04 30
Fax： +48 (22) 545 04 31
Email： info@pl.metrologic.com

2005 **年** 6 **月**

米国発行

00-05090B